

**製品名: D3DR ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09768**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DRD3
別名	DRD3; D(3) dopamine receptor; Dopamine D3 receptor
遺伝子 ID	1814.0
SwissProt ID	P35462
免疫原	D3DR 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 181-230

**背景**

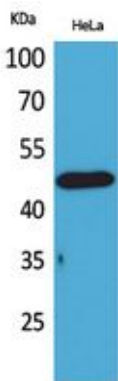
この遺伝子は、5つのドーパミン受容体 (D1~D5) のうち、D3 サブタイプをコードしています。D3 サブタイプ受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを阻害する G タンパク質によって制御されています。この受容体は、認知機能、感情機能、内分泌機能に関わる

脳の辺縁系に局在しています。この遺伝子の遺伝的変異は、遺伝性本態性振戦 1 型 (ETM1) の感受性と関連している可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする転写産物バリエーションが生成されますが、一部のバリエーションはナンセンス変異誘発による崩壊 (NMD) を受ける可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: DRD3 の遺伝的変異は、遺伝性本態性振戦 1 型 (ETM1) の感受性と関連している可能性があります [MIM:190300]。ETM1 は最も一般的な運動障害です。主な症状は、腕の姿勢時振戦です。頭部、脚部、体幹、声帯、顎、顔面筋も影響を受ける可能性があります。この症状は、感情、空腹、疲労、極端な気温によって悪化し、機能障害や行動不能に至ることもあります。遺伝形式は常染色体優性です。機能: ドーパミン受容体の 5 つのタイプ (D1~D5) のうちの 1 つです。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを阻害する G タンパク質によって制御されます。オンライン情報: シンガポールヒト変異・多型データベース,類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。サブユニット: CLIC6 と相互作用します。組織特異性: 脳。

## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

## 画像データ



D3DR ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。